特集 地域金融と地域経済

地域金融が地域経済の成長に与える影響

小　西　　大
左三川　郁　子

目　　次

1．はじめに
2．地域金融と地域経済の現状
3．金融と経済成長に関する実証研究
4．金融と経済の因果関係に焦点を当てた日本の研究
5．おわりに

本稿では、地域金融と地域経済の動向を概観した上で、金融と経済成長に関する学術研究を整理する。また、金融が経済活性化を促進するという意味での因果関係に焦点を当てて地域金融の役割を検証した小西・左三川［2020］の分析を紹介する。最後に、地域金融と地域経済に関する学術研究の知見を踏まえて、地域金融機関の統合を促進するための制度設計に関する留意点について述べる。

1．はじめに

地域金融機関の経営環境は、人口減少と後継者不足を背景とする中小企業数の減少、長引く低金利環境、デジタライゼーションの進展などを背景に厳しさを増している。預貸業務から得られる資金利益が減少傾向にある一方で、手数料収入の拡大にも限界がある。また、最近ではFinTechなど異業種の参入も本格化しており、銀行は新規業務の開拓やビジネスモデルの変革を迫られている。そうした中、2020年は新型コロナウイルスの感染症が拡大し、日本のみならず世界中の経済を停滞させた。コロナの影響で企業が今後、経営悪化に追い込まれれば、信用コストの増大という形で

小西　大（こにし　まさる）
一橋大学大学院経営管理研究科教授。1993年ウェスタン・オンタリオ大学大学院経済学研究科修了（経済学Ph.D.）。同年４月、東京経済大学経営学部専任講師。一橋大学大学院商学研究科准教授を経て、2009年４月より現職。主な論文に、“Bond underwriting by banks and conflicts of interest: Evidence from Japan during the pre-war period,” *Journal of Banking & Finance*, 2002年、“Factors affecting bank risk taking: Evidence from Japan,” *Journal of Banking & Finance*, 2004年（共著）がある。

左三川　郁子（さみかわ　いくこ）
日本経済研究センター研究本部金融研究室長。慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学。1990年日本経済新聞社入社。1997年日本経済研究センター出向。2019年一橋大学経済研究所准教授。2021年より現職。主な著作に、『マイナス金利政策』（2016年、日本経済新聞出版社、共編著）、『金融正常化へのジレンマ』（2018年、日本経済新聞出版社、共編著）がある。

©日本証券アナリスト協会　2021